

---

◇高橋邦武議員

○議長（森元淑雄） 次に、6番、高橋邦武議員の一般質問を許可いたします。高橋邦武議員は登壇願います。

（6番 高橋邦武議員 登壇）

○6番（高橋邦武） 通告に基づき、健康で長生きできる社会の推進について一般質問いたします。

人口減少と高齢化が急速なペースで進行し、今後も同様の状況が続くことが見込まれる中、健康寿命の延伸を通じて、一人一人が生涯にわたり生きがいや豊かさを実感しながら生活できる健康長寿社会を実現することが、地域の活力を維持していく上で必要になっています。

このため、県では健康寿命日本一の実現を目指し、健康づくりに取り組みやすい環境の整備や県民一体となった健康づくり県民運動を展開することにより、県民の健康意識の向上を図ることとしています。

町でも、健康寿命を延伸するため、町民の健康長寿と医療費の適正化を目標に掲げ、自分の健康は自分で管理し守るというセルフケアの概念を取り入れた第3期美郷町セルフケア推進方針を昨年3月に策定し、健康寿命日本一の実現に向けて各種の取組を進めています。

町民による健康増進の取組としては、運動教室への参加、セルフチェック機器の活用、かかりつけ薬局等への相談などが挙げられていますが、こうした対応ができない町民は多く、自宅で継続的にできるセルフケアの支援という難題があります。

令和4年6月定例会の私の一般質問で、平成30年度における町の健康寿命は、男性で県内7位、女性で2位と答弁があったほか、昨年12月には厚生労働省が令和4年値を公表しましたが、その推移分析と今後の向上対策についてお伺いいたします。

また、適切な食生活や運動、口腔ケア等を取り入れた健康的な生活習慣の定着と、たばこやアルコールによる健康障害等の未然防止に向けた環境づくりを進めることが必要です。

町では、日頃からの運動習慣を地域における取組の一つとしており、特に歩くことを重視し、ウォーキングコースやカロリー看板の設置、インセンティブを与える健康ポイント制度により実践を図っています。健康ポイント事業は、人間ドック、特定健診、がん検診、講演会、歩数目標達成などにポイントがつき、特典、参加賞が町協定企業から提供されますが、大仙市健幸まちづくりプロジェクトや市町村によるスマートウォッチの活用など先進的な事業を参考に、さらに拡充した取組ができないか、お伺いいたします。

次に、幼少期の生活習慣や健康状態は、大人になってからも大きな影響を与えることから、望ましい食生活や健康教育を通じた運動習慣の定着に向けた取組が重要となります。

第4期美郷町食育推進計画では、子供に関する現状と課題を検証し、子供の肥満の7割は食事や運動不足が原因としており、食生活の改善を中心とする食育の取組を推進しています。

小学生の肥満傾向児について、令和7年度で割合11%以下とする目標を掲げていますが、食生活の改善だけでは効果が薄いとの意見がありますので、どのように健康的な生活習慣を定着させていくのか、お伺いいたします。

次に、身体活動や運動は、子供から高齢期までの世代において、健康的な生活習慣の定着や様々な疾患の予防につながる重要な取組です。町では、65歳以上の高齢者が外出機会の拡大を図り、健康の保持増進や福祉の向上に寄与するため、はり・きゅう・マッサージ施術費、温泉施設利用料及び交通運賃を助成対象とし、上限1万5,000円のシニア元氣いきいき券を交付しています。

昨年9月の令和5年度決算特別委員会において、新たに対象とした交通運賃を含め共通利用券の給付にしたことで使い勝手がよくなったとの声もあり、事業費の増加につながったという答弁がありました。

一方、あきた美郷づくり株式会社の令和5年度事業報告を見ますと、千畑温泉の温水プールの利用者は前年度比12.3%増の1万8,550人となっています。健康の保持増進には温水プールの利用が効果的であり、その利用料を共通利用券に加えることで、さらにシニア元氣いきいき支援事業を充実させることができないか、お伺いいたします。

最後に、高齢化の進行により認知症高齢者の増加が予想される中、運動不足の解消、生活習慣病の予防、社会参加の機会確保などは認知症の発症を遅らせる可能性が示唆されており、県や医療関係団体と連携し、正しい知識と理解に基づく認知症予防の取組を推進する必要があります。

国では、昨年12月に認知症施策の指針となる初の基本計画を決定し、今や誰もがなり得る認知症について、みんなが支え合う共生社会の実現に向け取組を推進すると明記しました。また、地方自治体に対し、地域の実情や当事者の意見を反映した認知症施策の計画をまとめるよう求めています。

町では、認知症予防支援事業として様々な取組を行っており、広報美郷の「知っ得！あんしん！！「認知症予防」」など有用な情報発信もありますが、認知症の理解や予防、早期発見、早期対応につながる取組をどのように充実、強化していくのか、お伺いいたします。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は登壇願います。

（町長 松田知己 登壇）

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

健康づくり、セルフケアの推進における健康寿命の推移についてですが、令和4年6月定例会の

一般質問にて答弁いたしました、平成30年度の美郷町の平均寿命の数値については、県健康福祉部健康づくり推進課が各市町村の人口、死亡者数、要介護認定数等のデータを基に算出し、健康づくり支援資料集として公表していたものですが、健康寿命の算出には様々な方法があり、また人口規模が小さい場合は制度も十分でないことから、県は以降の公表を行っておらず、客観的なデータでの推移分析は現在できない状況です。

ただ、健康寿命の指標の一つとして介護認定者数の推移を見ますと、平成30年度をピークに徐々に減少しており、健康寿命の基準となる要介護2以上の認定者数は、平成30年度849人で、65歳以上の高齢者人口の11.6%であったのに対し、令和5年度は786人で、高齢者人口の10.6%に減少しており、この結果は健康づくりに関する取組成果と捉えているところです。

健康寿命の向上対策についてですが、町では議員ご案内のセルフケア推進方針に基づき、運動習慣の定着や、栄養、食生活を改善する取組を行っており、特に平成27年度から行っている「ぐっと楽運動教室」は満10年を迎え、当初会員数が約30名から現在は300名を超えるとともに、健康ポイント事業への参加者数も令和6年度において約300名となっているところです。

このようにセルフケアの浸透が徐々に図られているものと感じており、さらに令和7年度からは「ぐっと楽運動教室」を「ぐっと楽健康教室」に改め、運動のみならず食事や休養、ストレス対処法などで総合的に健康づくりを実践する場として取り組み、さらなるセルフケア推進を図ってまいります。

また、健康ポイント事業の拡充につきましては、これまで行ってきたメッツ健康法や、大仙市が行っている健康機器メーカーとの取組事例等を比較検討しながら、自宅でできる健康づくりなど、より多くの町民が参加しやすい環境づくりに努めてまいります。

次に、子供の健康づくり、食育の推進についてですが、町内各小学校の小学6年生を対象に、生活習慣病予防や規則正しい生活、毎日朝食を食べる大切さを伝えるため、管理栄養士と地域ボランティアの食生活改善推進員による講話と調理実習によるクッキング教室を各校1回から2回、合計で年5回実施しております。その際には、保護者向けの健康食生活のパンフレットや健康チェックシートを配付しているほか、子供が自分で作れるよう簡単なレシピも配付し、子供自身のセルフケアに向けた取組を行っているところです。

また、町では令和元年度に美郷の子どもセルフケア推進計画を策定し、家庭での運動、休養、栄養への取組を推進しており、その検証も踏まえ、4歳児、小学校1年生、3年生、5年生、中学校2年生を対象とした生活習慣に関するアンケート調査を毎年実施しております。その調査結果では、平均睡眠時間の増加や早食い傾向の減少など改善項目が見られる一方、メディアに接する時間

数の増加のほか、毎日朝食を食べる割合や運動頻度は減少傾向なども見られるため、引き続き教育機関など関係機関の連携により取組を一層推進してまいります。

また、高度肥満傾向児に対しては、養護教諭を通じて病院への受診勧奨を行うとともに、中学校においては令和3年度から活動量計の貸出しを行い、個別に肥満解消に向けた取組などを行っているところです。

さらに、平成28年度からは町内小学校の運動習慣や肥満傾向改善のため、スクールバス利用児童について、学校まで徒歩で歩く「てくてくとことこ運動」を行っており、体を動かす機会も創出し、今後も健康な生活習慣の定着や生活習慣病予防に引き続き努めてまいります。

次に、シニア元いきいき支援事業の拡充についてですが、令和5年度から温泉施設利用料助成及び、はり・きゅう・マッサージ施術費助成に加え、自動車運転免許証を持たない方向けの一般タクシー・バス料金助成を追加し、共通利用券として運用しております。

令和7年1月末現在の利用状況ですが、温泉施設利用が3万3,237枚997万1,100円、はり、きゅう、マッサージ利用が6,388枚191万6,400円、交通利用が5,720枚171万6,000円で、合わせて1,360万3,500円となっており、昨年度同時期と比較し16.6%増と、多くの方からご自身の状況に沿ったバランスで使用していただき、健康満足感や生活行動力の向上に寄与しているものと捉えております。

ご質問の、千畑温泉サン・アールの屋内温水プールでのシニア元いきいき券の利用についてですが、温泉施設と一体であり、利用料についても温泉施設と同額で、利用者が一部負担するという制度概念に合致すること、また温水プールでの水中運動は、浮力により膝や腰への負担が少ない状態で運動でき、循環機能の向上など健康増進にも結果的であること、年間を通じた外出機会の拡大になることなどを踏まえ、令和7年度より助成対象とする方向で前向きに検討してまいります。

次に、認知症対策の充実についてですが、町では第3次総合計画並びに令和6年度から令和8年度までを計画期間とする美郷町高齢者福祉計画を踏まえ、認知症対策に関する各種施策を推進しております。

まずは認知症予防の推進ですが、講演会や講座の開催などにより認知症予防の意識向上を図る取組を行っております。令和6年度においては、地域のサロンや老人クラブで計27回の介護・認知症予防教室を行っており、延べ241人の参加をいただきました。また、タブレットを使って脳トレを行う健康積み立て講座や介護予防講演会等も延べ19回行っているところです。

次に、認知症地域支援とケアの向上ですが、町内事業者等に「気づきの輪」への参加協力を求めたところ、登録事業者が74に達し、見守りの輪が拡大してきております。また、町内の介護事業所

が開催する認知症カフェへの運営支援を行うなど、認知症の人を含む高齢者に優しい地域づくりを推進しているところです。

そして、認知症サポーター養成と活動促進ですが、各小学校や六郷高等学校での講座開催を毎年行っているほか、各種団体や地域での講座開催により、認知症高齢者の正しい知識と適切な対応方法について理解を深める取組を行っており、令和6年度は約250人の認知症サポーターが誕生しているところです。

こうした現在の町の取組については、国の基本計画や近隣自治体と比較しても均衡の取れた内容となっており、今後も現在の施策を推進することが重要であると認識しておりますので、こうした取組を継続することで認知症への理解を深め、予防、早期発見、対応につなげてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）高橋邦武議員の再質問を許可いたします。

○6番（高橋邦武） 健康寿命の関係でございますが、先ほど、まず県で平成30年までは行っていたけれども、今は公表していないということでございましたが、県全体としては令和4年で男性が72.57歳、それから女性が75.45歳ということで、県全体としては公表されておって、日本一を実現すると、目指すことになっていますが、町でも同じく日本一実現ということ掲げておりますので、もし町でその年齢を出すとすれば、出せるかなとは思いますが、そうした場合において、例えば平成30年の状況を見ますと、男性が県内7位で、女性が2位ということで、女性は特に85歳ということで、結構長寿だったわけですがけれども、これがはっきりそういった事実が分かれば、美郷町は健康寿命が長いというような町のPRができれば一番いいわけでございますが、いずれ健康なお年寄りのいる町として、もっと活用してもいいのではないかと考えております。

それから先月、NHK総合テレビで「新プロジェクトX」という番組で、藤里町の社会福祉協議会のひきこもりゼロ実現を取り上げておりましたけれども、町におきましても誰一人取り残さないという姿勢が必要だと思っております。

ただ、1月に民生児童委員と議会との意見交換会で話に出ましたけれども、介護保険ですとか、生活保護などの社会的支援の対象にならないで、町内会、自治会に参加しないで孤立している人が存在しているという事実が分かりました。こうした方々の健康状態が非常に危惧されるところでありますが、関係する機関、それから団体、あるいは家族、友人等の連携、協力によりまして、多様な社会参加の機会を確保いたしまして、生きがいや希望を持って暮らすことができる、つながりと

いうことが必要かなと思っております。

それから、心の健康づくりということでは、笑うことが重要であるという新聞記事がありました。昨年11月に美郷町ふるさと大使に就任されました元祖爆笑王さんには、物産展やイベントの企画、開催のみならず、お笑いに関しても期待しているところであります。

町長には、長生きできるという観点から、生涯にわたる健康の維持増進のまちづくりに向けた基本的考え方について、ご所見をお伺いいたします。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は自席でお願いします。

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

長寿命化については、健康寿命と一致した認識であるわけですが、先ほどの答弁と重なりますが、現在町が取り組んでいる取組の内容については、他自治体と比較しましても均衡が取れておりますので、過不足の部分では、不足の部分はないと認識しております。

こうした取組を重ねることが、結果的に健康寿命の延伸、つまりは長生きにつながると思いますので、継続するということを意識して取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで6番、高橋邦武議員の一般質問を終わります。